

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予報第1号(4月)について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

トピックス

4月は麦赤かび病の防除適期です。必ず防除を行いましょ。散布に当たっては、周辺作物への飛散防止のため、飛散の少ないノズルや風の無い日、風向き、防除圧等に注意し散布しましょ。



**チオファネートメチル剤の、
出穂期以降の使用回数は1回**

平成17年10月19日付けで登録内容が変更されており、使用の際には十分注意する。



< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高く、2週目は高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率

要素	(低い)	平年並	(高い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予想対象地域：九州北部地方(福岡管区气象台 18年3月31日発表抜粋)

予報第 1 号

向こう 1 ヶ月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生現況	発生予報	
		(平年比)	(平年比)	(前年比)
麦類	赤かび病	-	並	やや多
カンキツ	かいよう病	やや多	やや多	並
	ミカンハダニ	並	並	やや多
ナシ	黒星病	-	並	並
ブドウ	黒とう病	-	並	並
カキ	フジコナカイガラムシ	-	多	並
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多	並
冬春トマト	葉かび病	やや多い	やや多い	やや多い
キュウリ	褐斑病	多い	多い	多い

予報根拠の (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は影響が少ないことを示す。

作物別発生予報

【普通作物】

1 麦類の赤かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

向こう 1 ヶ月の気象予報は、降水量は平年並である (±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期は、小麦は出穂後 7 ~ 10 日頃の開花期、大麦は出穂後 1 ~ 4 日頃の穂揃い期である。防除適期を過ぎると防除効果が低下するので、適期を失ないように注意する。

この時期に降雨や曇天が続く場合は、1 週間後にもう一度防除を行う。

イ 出穂期は、農業総合試験場の作況調査（小麦：11月21日、大麦：11月25日播種）によると、今後気温が平年並で経過した場合、シロガネコムギは4月15日頃、チクゴイズミは4月18日頃、ニシノチカラは4月10日頃、アサカゴールドは4月18日頃と予想されている。

ウ 防除薬剤は「平成 18 年度普通作物病害虫防除の手引き」を参照する。

なお、チオファネートメチル剤は平成 17 年 10 月 19 日付けで農薬登録内容が変更され、出穂期以降は 1 回しか使用できないので注意する。

エ 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はあるが、粉剤の場合は、散布後 6 時間以内に降雨があった場合、薬剤の効果が落ちるので注意する。

【果樹】

1 カンキツかいよう病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査結果は、次ぎのとおりである(+)。

発病葉率 1.1% (平年 0.3%、前年 0.5%)

発生ほ場率 25.0% (平年 8.0%、前年 20.0%)

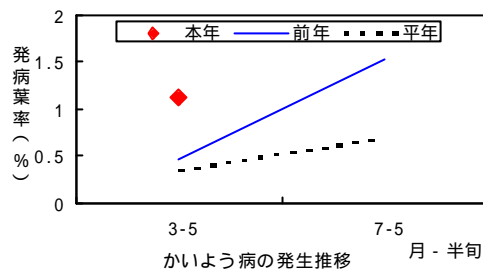
イ 向こう1ヵ月の気象予報は、降水量は平年並である(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病葉枝は伝染源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 新葉への感染が多くなると、果実への感染も多くなるので発芽前の防除を徹底する。

なお、発芽後に防除する場合は薬害に注意する。



2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査結果は、次ぎのとおりである(±)。

寄生葉率 5.3% (平年 4.3%、前年 1.0%)

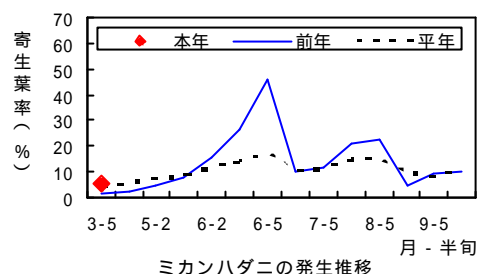
発生ほ場率 43.8% (平年 33.3%、前年 33.2%)

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並である(+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



3 ナシ黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

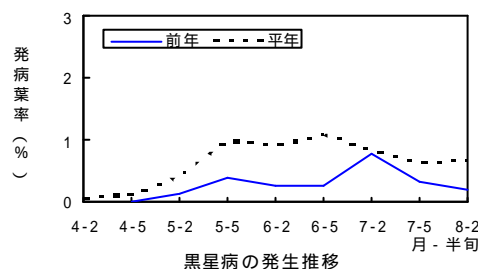
(2) 予報の根拠

ア 前年は5月2半旬に初発生を確認したが、5月中旬から6月下旬まで少雨で経過したため、一部の中山間地を除いて発生は平年よりやや少なかった(-)。

イ 向こう1ヵ月の気象予報は、降水量は平年並である(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 ブドウ黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

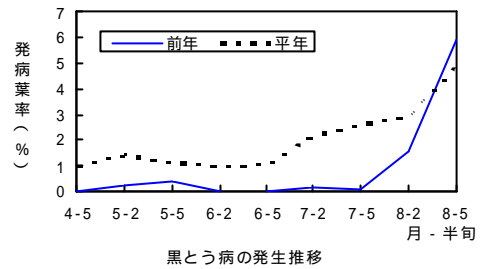
ア 前年は5月2半旬に初発生を確認したが、4月～7月まで少雨で経過したため、発生は平年より少なかった(-)。

イ 向こう1カ月の気象予報は、降水量は平年並である(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 頂芽の展葉2～3枚期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。

イ 罹病枝や前年取り残した巻きひげは除去する。



5 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年の10月2半旬調査の結果は次ぎのとおりである(+)

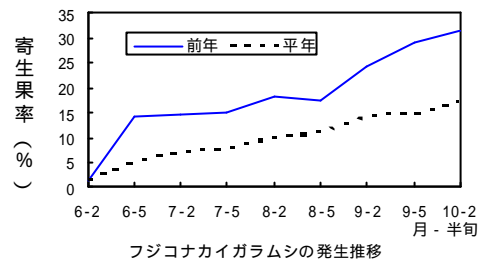
寄生果率 31.4% (平年 17.3%、16年 20.8%)

発生ほ場率 94.1% (平年 79.5%、16年 84.6%)

イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並である(+)

(3) 防除上注意すべき事項

越冬幼虫が新梢に移動する4月中旬～5月上旬に薬剤防除を徹底する。



【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	(平年比)	(平年比)	(前年比)	
カンキツ そうか病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。 ・罹病葉は伝染源になるので除去する。

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

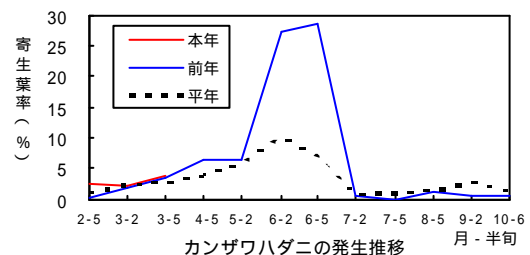
ア 3月5半旬調査結果は、次のとおりである(+)

寄生葉率 3.7% (平年2.5%、前年3.5%)

50葉当たり虫数3.2頭 (平年3.4頭、前年4.5頭)

発生ほ場率は 57.7% (前年69.2%)

イ 向こう1カ月の気象予報は、気温は高く、降水量は平年並である(+)



(3) 防除上注意すべき事項

ア 霜害発生後は、多発しやすいので早めの防除を行う。

イ 発生状況をよく観察し、発生の多い茶園は、農薬使用基準を遵守し防除を行う。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【野菜】

冬春トマト

1 葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査結果は、次ぎのとおりである(+)。

発病葉率 11.9% (平年 5.1%、前年 3.4%)

イ これまでの発生推移は図のとおりである(+)

ウ 向こう1ヵ月の気象予報は、降水量は平年並である(±)。

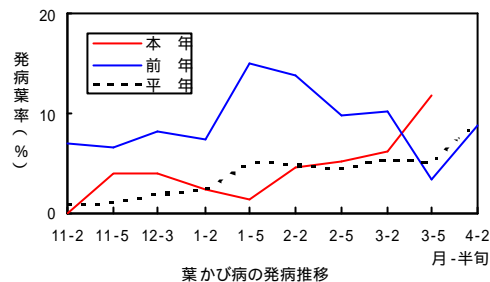
(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 多発すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。

エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。



冬春キュウリ

1 褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査結果は次ぎのとおりである(+)

発病葉率 20.3% (平年 4.7%、前年 8.0%)

イ これまでの発生推移は図のとおりである(+)

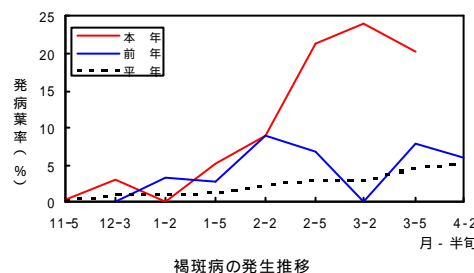
ウ 向こう1ヵ月の気象予報は、降水量は平年並である(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 多発すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。



【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予報		防除上注意すべき事項等
		(平年比)	(前年比)	
イチゴ うどんこ病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・葉裏を中心に薬剤散布を行う。 ・寄生した葉はほ場外へ持ち出す。
灰色かび病	やや少ない	やや少ない	やや少ない	
ハダニ類	多い	多い	やや多い	
冬春ナス うどんこ病	並	並	並	
灰色かび病	並	並	やや多い	
すすかび病	並	並	並	
冬春トマト 灰色かび病	やや少ない	やや少ない	やや少ない	
冬春キュウリ べと病	やや少ない	やや少ない	やや少ない	
うどんこ病	並	並	並	
灰色かび病	やや少ない	やや少ない	やや少ない	
野菜共通 ミミズ	やや少ない	やや少ない	やや少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・トマト黄化葉巻病の発生しているハウスでは、防除を徹底する。
コガネ類	やや少ない	並	並	

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について
ホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>

電子メール kfok0301@sp.jppn.ne.jp